

<減肥ポイント>

- 堆肥の肥料成分を活用することで化学肥料を減肥できる（肥料コスト削減）
- 有機入りの肥料を用いることで化学由来の窒素を低減できる

(1) 有機質肥料、有機物を利用して化学肥料を代替する技術

堆肥を施用する場合、堆肥中に含まれ有効化する肥料成分を換算し、その分だけ肥料を減肥できる。

例えば、牛ふん堆肥（肥効率20%）を2 t (2,000kg)施用したとき、1年間に有効となる養分量は、窒素4kg、リン酸12kg、カリ18kgなので、その分の減肥できる。

詳細は、前記した「Ⅲ 有機物の肥効特性」を参考にする。

堆肥の施用時期は、翌年の遅効きを防ぐため9～10月以降12月までに施用する。

堆肥の連年施用に当たっては、単年度の有効成分とともに土壤中に蓄積された窒素成分の無機化も加味する必要がある。そのため、毎年新梢の伸び、葉色、果実品質、落葉の状況などに注意し、施肥量を加減する。

堆肥の**連年施用により土壤中に特定の養分が過剰に蓄積**する恐れがある。定期的に土壌診断を行い、特定の養分が過剰と診断されたら、堆肥施用を一時休止する。